

卓話

静岡県会議員
天野 一様

～ 静岡県と朝鮮通信史について ～

皆様こんばんは。本日は卓話の時間をいただきまして大変光栄に思います。

この静岡県の朝鮮通信史の歴史一番初めに知ったのは、県立大学のキム・ヤンキ先生から、今から10年以上前にお聞きしました。どんな意味なのか初めは全く分かりませんでした。

”通信史”とは、「信頼を通わす使い」という意味で、オランダの長崎出島”通商史”は位が上になります。

1607年、今から400年前日本に訪問しました。1590年代に秀吉が朝鮮半島を2回攻め、1600年関ヶ原の戦いで徳川家康が日本を制定した時に、朝鮮半島の李王朝はまた攻めてくるのではないかと心配しました。

そのような状況下、津島藩は釜山と近かったため、そこから食料を輸入して成り立っていました。戦争状態に入ると一番都合の悪い津島藩が、徳川幕府と李王朝の仲立ちをしました。

1604年、京都の伏見城で李王朝の使者と徳川幕府の高官とで、お互いに交流をしようということを取り交わしました。1607年李王朝はソウルから釜山まで約550人の朝鮮通信史(その当時は通信史とは呼びませんでした)を送りました。

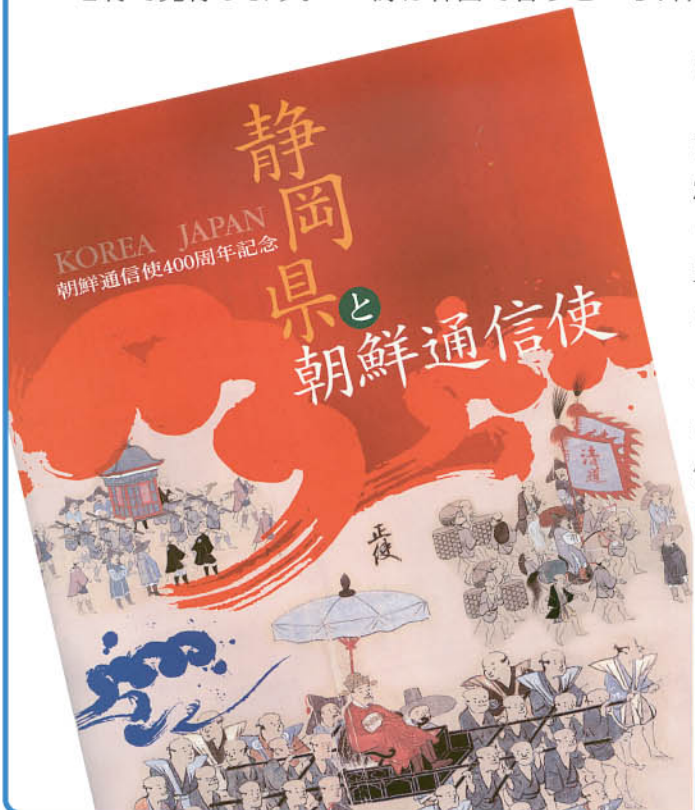
～中略～

清見寺には朝鮮通信史が残してきた屏風やお土産品がいくつかあり、おそらく今年の暮れまでに静岡市役所が、朝鮮通信史が残した屏風を現代語に訳した物を、釜山の朝鮮通信史博物館の協賛を得て発行します。この詩は韓国で言うところ、日本の”万葉集”にあたるような言語です。

大御所400年祭で静岡市が”清見寺の宝物”という形で発行されます。

1607年から1811年、204年間日本と朝鮮半島は、平和な交流があったという歴史的な事実は、21世紀日本がアジアの人々と平和な交流をしようとする時に、静岡市、静岡県が朝鮮通信史の歴史をしっかりと踏まえた上で、平和のメッセージを送れるのではないかと考えます。

もう一度、この朝鮮通信史の歴史を皆で研修し、皆が理解をするということが、静岡県民にとって大変大事ではないかと思ひ「静岡県朝鮮通信史研究会」発足しました。



出席報告 柏木副委員長

	月/日	出席計算 会員数	出席者	欠席者	出席率	メイク アップ	確 定 出席率
前々回	11/12	45名	29名	12名	—	4名	73.3%
前 回	11/19	45名	34名	9名	—	(3名)	—
本 日	11/26	45名	32名	12名	71.1%	(1名)	—